

第3期野洲市地域福祉計画 第3回策定委員会 議事録

令和2年11月9日（月）14：00～16：00

人権センター2階 交流研修室

1. はじめに

- ・吉田健康福祉部長あいさつ
- ・事務局より、過半数の委員の出席（委員13名出席）により、本会議成立についての報告
- ・会議録作成のため、録音について了承いただくことの説明
- ・委員交代についての報告

2. 議 事

（1）第3期地域福祉計画について

①計画名について

- ・事務局より、計画名称についての説明

<質疑>

委員 長：事務局にもう少し詳しい説明をお願いしたい。サブタイトルの説明は最初の参考で挙げてきたものから検討したということだが、それまでは「基本」が入っていなかったと思うので、それを入れることになった経緯について説明をお願いしたい。



事務局：今回、「基本」を入れた意味は、素案に説明を入れている。素案（別冊1）6ページに、これまでの地域福祉計画と今回の地域福祉基本計画の説明を入れている。前回の策定委員会でも示したが、社会福祉法に基づいて作る地域福祉計画と、社会福祉協議会が中心になって進めてきた地域福祉活動計画を含めて策定してきている。今回、今まで作ってきた地域福祉計画と少し作っている内容が変わるということで、地域福祉基本計画という表現にしてみてもどうかと、ここに入れている。同じく別冊1の8ページには、法的位置づけ等々の説明についても少し触れているが、地域福祉計画は社会福祉法の107条及び策定ガイドラインに基づいて作っている。法律上の本文があって作っているものであって、地域福祉活動計画は社協が地域と一緒に作っていくものという説明を入れている。このあたりを受けて、地域福祉「基本」計画という形で、「基本」という文字を入れてみるのはどうかと考える。また、「ふだんのくらしのしあわせ計画」の説明については、同じ別冊1の資料を戻っていただいて、1ページ目に「ふだんのくらしのしあわせ」というところで、福祉の対象はどの範囲なのかを説明をする資料をページの1に入れている。どうしても、福祉という言葉が出てきた場合に、障がいのある方とか高齢者の方、児童など、限定された特別な人達のためだけのものという認識が先行してしまうのではないかと、ここで、語呂合わせにはなるが、「ふだんのくらしのしあわせ」ということで、すべての方に影響する福祉の範囲はすごく広いということを意味づけるため、「ふだんのくらしのしあわせ計画」を入れさせていただいた。

政本委員：私が書いたのは、若干誤解があったのかもしれないが、社会福祉協議会の活動計画と、福祉計画を一体化するという捉え方よりも、むしろもう1回、これを基本にして活動し直そうということに重きを置く意味で、「基本」を入れたらどうかという趣旨なので、両方の計画を一緒にしただけであれば「基本」は必要ないと思う。

田中^修委員：福祉の基本計画だから、基本の文言を入れたら良いと思う。

水島委員：今の基本計画の基本は入れた方が良くと思うが、「第3期野洲市地域福祉基本計画」の下に「ふだんのくらししあわせ計画」とあって、サブタイトルと3行になっているが、これを2行にすることはできるか。「第3期野洲市地域福祉基本計画」は良いと思う。次のサブタイトルに「みんなで育む、ふだんのくらし、安心のまち」とすると、2行ですむと思う。「ふだんのくらししあわせ計画」と「みんなで育む、安心のまち」と入っているが、この2行を一緒にした方が良い。

辻委員：自分は基本がない方が良く思ったが、専門家が「基本」はあった方が良くと言われたら、そうかと思う。

石原委員：今、提案していただいた意見の方がすっきりして良いと思う。

南委員：「基本」はあった方が良く思う。「ふだんのくらし」という単語について、先程の説明では対象が皆さんと言っていたが、それは状況で、対象者のことではない。そこが矛盾していると思う。「ふだん」は状況だと思うが、対象が皆さんと言うのであれば違うと思う。2行目、3行目、「みんなで育む」とあるから、そこまで読まないで対象がみんなということが分かりづらい。先程の意見のように、先に「みんなで」と入れて、まず対象はみんなで、こういうことをしますと並べた方が分かりやすいと思う。

田中^陽委員：「基本」については、私レベルでは、あってもなくてもピンと来なかったもので、皆さんの意見に賛同させていただこうと思うが、普通に読んで、くどいサブタイトルだと思う。すっきりさせるなら、先程南委員が言われたように、私も「ふだんのくらししあわせ計画」と聞いた時に、「福祉」をからめていると聞いたらなるほどと思うが、はじめて見ると少し分かりにくい。ここは「ふくし」に捉われずに、対象と中身が合致したすっきりしたタイトルが良いのではないかと思う。

川島委員：皆さんの意見を聞いていて、それぞれ、そうだなと思う。基本的には、スッキリしていて、誰もが分かる、読んでスッと入ってくるような文章になれば良いと思う。

委員長：皆さんに意見を言っていただいた。まず「基本」を入れることについては、絶対ダメだと言う方はいらっしゃらないということで、よろしいか。

委員一同：異議なし。

委員長：それでは、「第3期野洲市地域福祉基本計画」とし、そのサブタイトルを、「みんなで育むふだんのくらし・安心のまち」という意見があったと思うが、どうか。

田中^修委員：「ふだん」という言葉が、どうかと思う。

委員長：「普通」と「ふだん」は違う。「普通」となると、人それぞれ普通が違うという議論になると思う。日々の暮らしが安心して幸せな感じで暮らせれば良い、という意味合いだと思うが。

田中^修委員：「ふだん」を外したら、どうか。

委員長：みんなで育む「暮らし」も無くすことになるか。

田中^修委員：後ろに計画があるから、「みんなで育む しあわせ計画」でも良い。「ふだんの暮らし」というのが、どうか。

委員 長：「みんなで創ろう」という意見もあった。創っていくのか、育んでいくのか。

南 委員：育むというのはベースがある。育てる元があって、それを伸ばすということだと思う。創るとなると、一からというイメージになる。そこが違う。基本計画なので、基本ありきのはずということは、それを市民みんなで、さらに良いものにしていこうという意味であれば、「創る」のではなく「育む」だと、私は思う。

浅田委員：「創る」の方が好きで、力強い感じがする。創っていこう！となるが、育んでいこう！という感じはしない。

政本委員：同意見。市政が新しくなったことも考慮して「創る」の文言を提案した。

事務局：2段にするなら、別に「育み育てる」と2つ入れても良いと思うが、どうか。



南 委員：「育み育てる」は同じ。「創る」と「育む」を両方上手に混ぜるといふ感じか。

委員 長：みんなで創り、育む。

石原委員：タイトルなのでシンプルなものが良いと思う。「育む」よりも、「創る」の方が響きとしては良い気がする。

水島委員：元々あったものを育んで創っていく。ゼロからではない。そうであれば、おのずと。

委員 長：その議論もある。育てるのか、創り出していこうとするのか、その辺の感覚的なものかもしれない。理念みたいなものなので、皆さんのイメージで、野洲の地域福祉が、今のぐらいのイメージなのか。それを今後、しっかり創り出していきたいということなのか、今ある野洲の地域福祉をさらに育んでいきたい計画なのかということになると思う。ちょっとした言葉の違いではあるが、結構大きなところなので。

水島委員：2期があって3期があるということは、元があって、さらに育んでいこうとなる。

南 委員：伸ばすとか、そういう言葉を探したら良いのではないか。

委員 長：広げるとか。

南 委員：広げてもダメ。質を上げることが必要なもので。何か良い言葉があれば。

浅田委員：論理的に考えたら、「育む」の方が正しそう。「創ろう」は、たぶん感情に訴えている。感情の人間と論理の人間の対決。

委員 長：みんなで一緒に創ろう、やっっていこうという感覚が欲しいという話だったので、例えば「みんなでともに育む」とか。

政本委員：色々説明を聞いていると、なるほどとも思う。

委員 長：「野洲市地域福祉基本計画」で「みんなで育む安心のまち」とするか。事務局は、それで大丈夫か。

事務局：大丈夫。事務局内でも「育む」「創る」議論の時に、一応ゼロではないという話があり、「育む」と言っていた。

田中^修委員：誰が読んでもパッと分かる簡単なものの方が、理解するには良い。難しく、くどくど書かれると、この文言は何かとなるので、シンプルの方が良いのではないか。

委員長：それではシンプルに、「第3期野洲市地域福祉基本計画、みんなで育む安心のまち」とする。

②安心・安全の取り扱いについて

・事務局より、安心・安全の取り扱いについて説明

<質疑>

委員長：事務局の説明の通り、安心は安全の上に成り立っているものなので、特に安全は出さなくても良いということで、異議のある方はあるか。

浅田委員：異議はない。ただ、表紙とかを安心だけにするのは、シンプルになって良いと思うが、中身で細かいところで、どうしても安全が必要な場合には、入れざるを得ないということで良いと思う。また、安全の上に安心がすべて成り立っているわけではないと思う。前もメールでも話したが、どちらかと言うと、安全は客観的で、安心は主観的であるという思いもある。

南委員：私も、大きなベースとして安全が大前提だと思う。安全だから必ず安心とは限らないが、安全が先に来ちゃうと、イメージ的に少し押しつけがましい感じがある。安全はがんばって作ったので、その上で、皆さんで安心を感じてくださいという意味で良いと思う。



川島委員：安心・安全というセットで言葉をよく使う。防災とかの計画であれば、安心・安全の言葉が良いと思うが、福祉なので、安全ははじめから保障されていて、その中に安心があるということで、片方だけでも良いと思う。それと、文章の中で必要な場合は使っても構わないと思う。セットで使う必要はないと思う。

委員長：それでは、理念等には特に安全は入れないが、中の文章等で必要な場合には、安全という言葉も使いながら、計画を創っていくということで進めていきたいと思う。

③計画素案について

・事務局より、第1章について説明

<質疑>

委員長：追加資料もあるが、それも含めて確認いただきたい。

浅田委員：まず1ページ、(2)①②③④とあるが、絵とか、こういうように重なるといのがあれば分かりやすいと思う。丸が重なっているような。4つか5つか、何か絵があると、イメージがわく。

事務局：考える。

浅田委員：その下の点線のカッコの中で困っている人というのが書いてあるが、困りごと以外の、生きにくいと思っている人達がいる。それも困りごとになるのかもしれないが、そういう生きにくさを持っている人達も何か入れられたらと思う。

事務局：要は、なるべく一番広い概念として使いたいと考えている。当然、生きづらさとか、そういうところも入ってくるが、どう表現したら一番網羅できるように伝わるか。

浅田委員：例えば、生きにくいからひきこもっている人、でも、自分はそれで困っていない。生きにくいから籠もっているだけ。

委員長：生きづらいけど困っているとは感じていないわけか。

浅田委員：そう。そういう人達も結構いると思う。

事務局：5ページの例ではないが、そのところに引きこもりとかも入れて、そういうのも入るような形でどうかと思う。

浅田委員：生きづらいと感じている人達も紙の上に表したいと思う。

事務局：私も明確な表現はないが、ここはなるべく一番外の概念だと思って使っている言葉なので、より良い言葉があったら、ぜひ教えていただきたい。

浅田委員：それから、5ページの生活困窮者は、お金に困っている人だけではなくて、色々な人がいると言われていた説明については、ここにまた追加されるのか。

事務局：書き足しをしていくつもり。例示については、逆にこんなものがあつた方が良いのではないかというのが言いたかったのが正直なところ。

浅田委員：書いてもらえるのであれば良い。

事務局：生活していく中で心配だとか、気になるとか、困ったとか。どうしても生活困窮者という言葉に引っ張られてしまうが、何とか改善したいということで具体例をいくつか出すことでカバーできないかと考えている。

南委員：5ページの件で、まず自分が困っている人かどうか気づいてない人の掘り起こしの方が大事だと思う。例えば、フローチャートで、はい・いいえとか、ゲームではないが、より分かりやすく。例えば、「あなたはこういうことですか？」に「はい」で進んで、「こういうことですか」と2～3つの質問に答えて導くとか、チェックリスト的に、「こういうことで、普段こう感じている」とか、「こういう状況にある」とかのチェックリストがあつて、例えば赤いところでチェックが3つある人は、きっとお金に困っている人だからここで相談に乗りますとか、子育てで困っている人はこういう人に相談したら良いですよとか。そうか、私は困っている人で良いのかと思ってもらえるような、そういう分かりやすい表的なものができたら、文章として読み取るのは大変なので、ゲームと言うとすごく軽くなってしまうが、若い人であれ年配の人であれ、私も対象だと分かるツールがあると良いと思う。ただ羅列するのではなくて、自分がどこにあてはまるか分からないから、皆さん相談しようがないと思う。

委員長：そんなことをイメージしたものを作れそうか。

事務局：いろんなところのものを参考にする。見守りリストとって、見守る側の話で、こんなことに気づきませんかというリストとかもあるので、その辺も参考にする。困っていない人は、この計画をそもそも多分見ないという話もあると思うが、その辺の啓発も含めて、どういう形でできるのか検討させてもらう。

石原委員：5ページのイメージ図で、たくさん文章を書いてもなかなか読んでくれない可能性が高い。そういう意味では、やはり絵とか図で示すと分かりやすい。そういう工夫の方が分かりやすい。この絵をもっと充実して欲しい。例えば不登校のことを引き出して出すとか、先程話してた引きこもりとか、文章を一生懸命書くのも大切だけど、この絵を充実の方が大切だと思う。

田中陽委員：この市民生活相談課は、高齢者の人達は本当にすごく日々お世話になっている課だと思う。縦割りの行政の間の隙間を縫って、本当に困っていることに実際動いていただいている。例えば、地域でゴミ捨ての問題がすごく問題になっている。ゴミ捨ての問題は小さいことかもしれないが、最初に取り組める議題ではないかと思うぐらい深刻である。出しに行けない。ヘルパーさんを入れたら良いと言われても、その時間帯にヘルパーさんを入れるのはすごく難しい。この間も、市民生活相談課の方と一緒に、山のようなゴミの家の片付けの手伝いをしている。もう1つ、少し話は変わるが、クーリングオフが必要な時もある。そういうところも対応していただけるので、野洲市独自でみていただいている、私達は本当に感謝している。ここの課の方に、どんな内容があったかを聞いていただくと良いと思う。本当にお世話になっていて、何でもそこに言ってしまうぐらいなので、その課がパンクしないような形で書かれた方が良いと思う。色々な問題があると思うが、事例とかを聞いて書かれると良いと思う。この課に言えば何でもしてもらえると誤解されてしまうと思うが、実際のところはどうか。



事務局：何でもする。皆さんと協力しあっているので、単課でやるというよりも、連携して行っている。

委員長：これまでやっていた取り組みのページにしても良いかもしれない。こんなことに取り組んできました、そういうものをもっと広げていきたいというふうなことを、計画に盛り込むのも大事だと思う。事例をそのままは出せないなので、例示ということになると思うが、そういうことに取り組んでいる課があるとか、それを地域の人が協力して取り組んでいるということ。市民が知らないということが課題だと思うので、それを知ってもらうのも、この計画ではとても大事だと思う。先程から、5ページのイラストの意見が結構出てくるが、そこについても今の話と同じで、市民の方に分かってもらうことが一番大事だと思う。市民が野洲でどんなことが起きているかとか、それに対して、どんな取り組みがあるのかということを知ってはじめて進んでいくと思う。その部分も伝えていくことが大事だと思う。事務局で詰めていかないといけないところだと思う。

山口委員：私は保育園代表で来ている。民間保育園5カ園と、公立保育園5カ園、合計10カ園が野洲市にはあるが、保育園へ入れない子どもが、10月で65人いると聞いた。それがどうしようもない。定員をいくら増やしても追いつかない。保育園に入れたいと言って、保育園まで来られる。おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さんが子どもを連れて保育園まで来る。市役所に言いに行っても入れてもらえないから、保育園に来たということで、すぐに入れてあげたい気持ちにはなるが、困っている。勤める所はあるけど、子どもを預かってもらえる所が無いので行けないのが現状だと思う。保育園の子どもの問題では、そういう問題があるということもお見知りおき願いたい。公立は定員を増やしたと聞いたが、増やしても10人ぐらいだと思う。民間は評議員があつて、理事がいて、皆の承認を得てやっとOKが出るような仕組みになっている。本当に父兄の方には

申し訳ないと思っている。床平米はあるが、保育士が足りない。前は机並べて試験するぐらいあったが、今は保育士の人数が足りないので、言われても入れてあげられない。その2つの理由で、保育園や子ども達は困っている。

委員長：それも子育ての中の困りごとだと思う。これは、子どもの計画との連携という話になると思うがどうか。

事務局：待機児童は先生のご意見の通り、残念ながら皆さんにご迷惑をかけている状況にある。担当部局としては、可能な範囲の中で努力している中ではあるが、福祉施策として待機児童が発生しているところについては、真摯に受け止めて対応していかなければならないと思っている。弁明にはなるが、先程お話があった通り、施設的にはキャパはあるが、担っていただく先生方をなかなか確保できないというのが一番の要因になっている。

田中^修委員：地域で子ども会があって、色々な地域行事に参加されている。幼稚園から小学校1年生に入ったり、私立保育園から小学校1年生に入ったり、色々なパターンがある。子ども会の役員の成り手が難しい。個人情報に阻まれて、次に1年生に入られる方がどの人が把握できない問題が起きている。

もう1つはおすそ分け運動ということで、この間からこども食堂ができないので、食材提供をしているが、その中で、本当に生活に困窮されている方がいるのか、その人に届いているのかどうか懸念している。この前、こども課に尋ねたら、ひとり親の方は何人ぐらいおられるのかと聞いたがわからず、福祉医療費助成制度（マルフク）の数でならわかると言われたりと、市全体でひとり親が何世帯か把握できなかった。色々な分野にまたがる連携はどこでしているのか。社会福祉協議会でも把握していると思うが、その一括的な整理ができていないので、本当に食材提供したい方々にできづらいと感じている。

もう1点、命の問題として、孤独死がたくさん増える傾向になってくると思う。先程、ゴミの処理の話もあったが、ゴミの中で倒れて亡くなっている人もいる。それで、なかなか発見されなかったというケースも出てきている。こういう対策は、福祉計画の中に入らないのか。

委員長：子どもの情報が子ども会で把握できない、成り手がいないという話があった。あと、こども食堂で、食材を配るにあたって、本当に困っている人に渡っているかどうかということ、孤独死に対応することについては地域福祉計画の範疇と思うが、そのあたりの庁内連携は、どうされているか。

事務局：まず、子ども会に限らず、役員の成り手不足の話は当然出てくるところだと思う。うちで管轄しているが、民生委員でも出ている話なので、そのあたりのところも、どう表現していくかというところがある。また、おすそ分け運動の話で、本当に必要な人に支援が届いているかどうかというのは、正直、永遠のテーマになっているところがある。どの切り口から見るかというところで、対象の数が変わってきてしまうということは当然あると思う。ただ、色々な情報を組み合わ



せて、本当に必要な人をカバーしていけるような形でとっていくというやり方しか、今のところはないのが正直なところである。あとは、孤独死の話についても、やはり支援がどう届くのか。先ほどの話と一緒に、どういう形で誰かが、例えば3日に1回、誰かがしゃべるような環境が必ずあれば、もし亡くなっていたとしても、早く発見することができると思うが、そういうあたりで書き込みをしていくということになると思う。

事務局：先程の困窮者に対する食料の支援については、市民生活相談課では、毎週フードバンクからも食料の提供とか、地域の方々からお米等の提供を受けている。それを子育て家庭支援課、家庭児童相談室という、ひとり親家庭や虐待等々の家庭の情報を知りうるのところの課と連携をして、対象家庭に毎週お届けをしている。それと、単身の地域でお亡くなりになられたケース等、非常に相談が増えている。亡くなった後の死後の事務ができないと、いわゆる死亡届を出す人もいなければ、お葬式をしてくれる人もいないという相談が増えている。その中で、地域福祉計画の中にも位置づけていく重層的支援という、重なり合う支援という理念を入れていく中で、共助の基盤づくりを行っていくように位置づけられているので、そうした死後の事務とか、見守りとか、困窮者の方々に対する支援の仕組みを位置づけていく予定にしている。

委員長：ピンポイントというわけにはいかないことではあるが、そういったことも含めて、幅広く、各専門分野と連携して取り組みを進めていくということ、これまで以上に強化していくことが大事だと思う。

それでは、第1章については、特に5ページを分かりやすいイメージのイラストにして、どのような内容を盛り込むのかということについて、もう少し意見もあるかと思うので、また事務局にご連絡いただくということで内容を充実していけたらと思う。

・事務局より、第2章について説明

<質疑>

浅田委員：18ページで「支援が必要な人の状況」とあるが、高齢者と障害者と生活保護の状況がある。先ほどからの議論の生活困窮者は広いということを見ると少し合わない。言葉だけの問題になるかと思うが、支援が必要な人の状況としてこれだけ挙げるのは良くない。

委員長：地域活動の状況についてデータはあるのか。地域の色々な活動団体がどんな活動をしているのか。

事務局：それは無さそうだが、出せそうなものがあれば検討する。支援が必要な人の状況となっているが、この表現はご指摘のとおりおかしいので修正する。

浅田委員：これはそれぞれの個別計画に載っているもので、同じようなものをこの計画に載せなくても、大雑把に書いておくだけでも良いのではないか。何か工夫を考えていただければ。

事務局：分野別計画との関係性が分かるような何かにするということで、考える。

・事務局より、第3章の基本理念、基本方針について説明

<質疑>

南委員：「福祉は他人事と思われがちですが」までは良いと思うが、そこで災害についてだけ書かれているのは違和感がある。もっと身近に感じてもらう話の方が、余計災害のことを書

くと、他人事になる気がする。私は普段から、防災の話をするときには、まず他人事だと思っている人を、どう自分事に思ってもらおうかという話から始めるので、すごく逆だと思った。事例として、コロナウイルスみたいにすぐ起きることが書かれているが、冒頭で地震や豪雨の話、自然災害によって生活のしづらさが、いつ我が身に降りかかるかというよりは、生活のしづらさなんて、もっと身近に普段からあるものだという表現の方が良いと思う。

委員 長：「ふだんの暮らし」は消したが、普段の暮らしの困りごとを書かないといけないということだと思う。

浅田委員：基本理念の上の3行、「すべての人がつながって、役割を全うする時代になりました」とあって、すべての人が何らかの役割をしないといけないように読める。それは望ましいのかもしれないが、みんな何らかの役割を分担しろと、何か押しつけてないかを感じる。

事務局：こちらとしては、すべての人にちゃんと出番があって、役割があってという意味合いで使いたいという思いがある。

浅田委員：それは分かるが、読んだ時には押しつけになると感じる。

委員 長：すべての人が、その人の状況に応じた役割が、状況というかな。できる役割があるということを書きたいということだと思うので、また考えましょう。

吉田委員：役割を担うではダメなのか。

委員 長：すると言いつ切るのではなくて、その人に応じた役割を担うことが必要な時代になりましたとか、「時代」が要らないのか。

浅田委員：基本的に、人はすべて何らかの人の役に立つ。でもそれは、気づいていない人が結構いる。だから自分は、そういう人の役に立っているというのを自覚してと言うか、何かそういう柔らかい感じの役割でなくても良いかもしれない。

委員 長：また検討してもらいたい。

事務局：表現は直すが、書いている方向性や表現、書こうとしている方向は大丈夫か。

委員一同：異議なし。

南委員：言葉へのツッコミで申し訳ないが、年代の違いや障害の有無に関わらずと限定しているのは、どうなのか。年代の違いや障害の有無に関わらずと、それだけを書かれている。障害の有無という言葉を使うと、ものすごく極端に規制されている気がする。

事務局：削除する。

・事務局より、第3章の基本目標、施策の体系について説明

<質疑>

田中^修委員：29ページの基本目標1、近年では支えあいや助け合いの仕組みが機能しにくい「地区」とあるが、これは「地区」ではなくて「地域」だと思う。

事務局：修正する。

委員 長：基本目標1の「ともに支えあう地域づくり 市民主体的な地域福祉活動の推進」について、どうか。

事務局：基本目標2は市がすることなので良いが、基本目標1も3も、要は市からの上から目線というコメントをいただいている。結局、市民がやっていくことについて、市が作った

計画の中で、市民にこうやりなさいという形にも取れるから、見直した方が良いと書いていただいていた。

委員 長：市民の皆さんに色々な活動をしていただいたり、少しのおせっかいとか、関係性を作っていたきたいというところを進めていくにあたって、市や社協が何をするかという書きぶりになっていると思うが。

浅田委員：例えば基本目標 1 (1) ①、30 ページの「地域や人のつながりを広めます」とあるが、広めるのは誰なのか。

委員 長：計画の第 4 章のところでもそこを書いていくという感じだと思う。

浅田委員：実行面では次の章で細くなるだろうけど、全部広めますとか取り組みますとあるが、行政目線の表現にはしたくない。今ディスカッションすると、時間がかかっちゃうと思う。

委員 長：また 1、2、3 ともに改めてご意見をいただく形で、またメーリスで流していただくようにしたいと思う。

事務局：基本目標を 3 つ書いているところの文として、市民というか地域というか、基本目標 1 がどちらかという主役になる言葉が市民や地域になって、2 つ目は市が中心にきっちり責務としてやっていく部分と、最後はネットワークに関することとしてまとめた。そういうまとめ方で良いかも確認をしておきたい。

委員 長：基本目標 1 は市民の取り組み、2 が市と社協さんもか。

事務局：社協も含めた。

委員 長：3 つ目のネットワークはみんなで、そういう意味で、それぞれの役をイメージした形の目標の立て方で良いのかということか。この(市民)(市)(ネットワーク)は残しておくのか。

事務局：これは削除する。

委員 長：どういう地域を作っていくか、どういう仕組みを作るか、どういうネットワークを作るかということが、1、2、3 の目標になる。第 4 章では、それぞれの役割を書いているので、書きぶりについても一度事務局で検討してもらいたい。

・事務局より、第 5 章の基本目標、施策の体系について説明

<質疑>

副委員長：今回の地域福祉基本計画については、市と社協の一体化の計画であるが、計画全体としての評価と社協としての評価については、評価方法や評価時期も含めて、どのように考えているのか。

事務局：社協の役割についての評価は、社協の議決執行機関である理事会・評議員会において評価をし、その評価も含めた形で(仮)推進会議において評価していただくことで考えているが、評価方法の詳細については、事務局で検討して提案させていただきます。

委員 長：それは立ち上がってから、相互に調整して進めていっていただくという形で。



事務局：必然的にそうなると思う。調整を事務局同士でして、またご提示させていただく。

政本委員：推進体制も図にしていただけませんか。

事務局：考える。

政本委員：それと、今まで第1期、第2期と10年近くやってきたものと、推進体制は変わるのか。

事務局：変わる。

政本委員：推進会議についてはこれからだと思うが、どういうメンバー構成になるのか、あまり素人だけではなくて、専門家集団もたくさん入れていただいた方が良さだろうと思う。あと、進捗管理について、市民並びに企業、各種事業所が主体的に取り組まなければならない項目の進捗管理はどうするのか。市民主体で動くところの役割は非常に大きいと思うので、それをどうコントロールしていくか。上から目線であるとの指摘が出てくるともやむを得ないと思うが、そうしないと物事は進まないのではないかという思いもある。その辺をどうしたら良いか。文言の中に、そういう意味で市民とか事業所等の活動の進捗管理の文章を入れる必要があれば入れた方が良いと思う。それと、最後に、より効果的な取り組みを進めるというのは分かるが、計画や施策の推進の評価ですべてが終わるわけではない。目標がほしい。目標に対して、どれだけ達成できたかということが、これまでの10年間の活動で報告されているか気にしている。施策が100%できたから満足しているわけでは、全然、物事の目的を達成したことにならない。あくまでも目標実現に向けて、より効果的な取り組みを進めるということでなければいけないと思う。

事務局：当然の話だと思う。市民や事業者がやってくれることについての評価や進捗管理は、正直、まだどうしようかと思って書き切れていない。そこはまだ全然煮詰まっていなくて、市民の今の活動の発表をしてもらおう機会を作るとか、そういうところで思考が止まっている。自分達がしているところの評価検証はできるが、地域福祉を進めるにあたって関わっていただいているところの進捗管理、評価をどのように持ってくるのか、大きいテーマになるが検討材料として持ち帰りたい。

浅田委員：細かな項目の評価検証は分野別計画にもあるから、その上位にある地域福祉基本計画での評価検証項目はかなり大雑把なものになると思う。かつ、評価検証をしようと思うと、それが評価できるような計画や項目になってないといけない。例えばここに、第4章の最初にある、挨拶や声かけしますとかあるが、その検証のしようがない。そこを検証できる内容に変えないといけない、そうしないと評価できない。

事務局：KPIの話で数値化する、見える化するという話が出てくるのは当然だと思うが、見える化になじまないものがこの分野は非常に多い。

浅田委員：数値化しなくても、ABCでも良いのではないかと。要は何らかの、実際に評価できるような項目でないと困ると思う。内容の第4章については、そういう項目にしようというところで一緒に考えていきたいと思う。

3. 今後のスケジュール等その他

- ・事務局より、今後のスケジュールについて説明

4. 閉会